

(2) ⑧小学校家庭・中学校技術・家庭（家庭分野）

育成をめざす資質・能力 ～何ができるようになるか～

家庭科及び技術・家庭科（家庭分野）では、実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見出して課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することが求められています。

【小学校家庭 の目標】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

小学校

知識及び技能

家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等

日常生活の中から問題を見だして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

学びに向かう力、人間性等

家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

【中学校技術・家庭（家庭分野） の目標】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学校

知識及び技能

家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等

家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

学びに向かう力、人間性等

自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

★目標の改善

「生活の営みに係る見方・考え方」（5・6ページ参照）に示される視点は、家庭科及び家庭分野で扱う全ての内容に共通する視点であり、相互に関わり合うものです。したがって、児童生徒の発達の段階を踏まえるとともに、取り上げる内容や題材構成等によって、いずれの視点を重視するのかを適切に定めることが大切です。

具体的な教育内容の改善・充実 ～何を学ぶか～

★内容の改善・充実

今後の社会を担う子どもたちには、グローバル化、少子高齢化、持続可能な社会の構築等の現代的な諸課題を適切に解決できる能力が求められていることから、家庭科、技術・家庭科においては、次のような見直しが図られました。

○小・中学校の各内容の系統性の明確化

小・中学校ともに「A 家族・家庭生活」、「B 衣食住の生活」、「C 消費生活・環境」の三つの内容で構成され、社会の変化に対応して、家族・家庭生活に関する内容、食育の推進に関する内容、日本の生活文化に関する内容、自立した消費者の育成に関する内容の充実が図られています。

○空間軸と時間軸の視点からの学習対象の明確化

<小学校> 空間軸：自己と家庭 時間軸：現在及びこれまでの生活

<中学校> 空間軸：家庭と地域 時間軸：これからの生活を展望した現在の生活

○学習過程を踏まえた改善

生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視します。

また、この見直しを基に、具体的には次のような内容が示されています。

・「生活の課題と実践」の一層の充実

<小学校> A(4)に家庭や地域と連携を図った「家族・家庭生活についての課題と実践」が新設

<中学校> 「生活の課題と実践」が各内容にA(4)、B(7)、C(3)として位置付けられ、三項目のうち、一つ以上を選択して履修

・「生活の営みに係る見方・考え方」と関連を図った内容の見直し

家族・家庭や地域における様々な問題を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承、持続可能な社会の構築等の視点から捉え、関連付けて扱うこと

・調理及び製作の一部の題材の指定（小学校の「B 衣食住の生活」）

(2)「調理の基礎」・・・ゆでる材料として青菜やじゃがいもなどを扱うこと

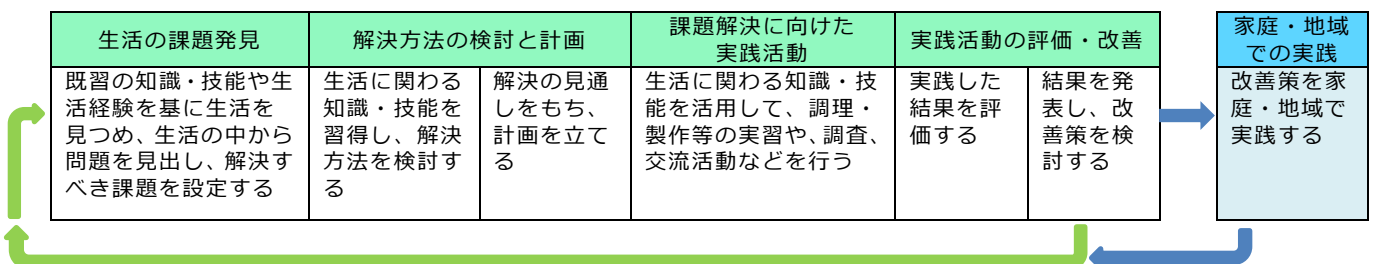
(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」・・・袋などの製作を扱うこと

📖 解説 小学校家庭編 p.6~11、p.17~19 中学校技術・家庭編 p.13~15、p.67~68

主体的・対話的で深い学び ～どのように学ぶか～

小学校では2学年間、中学校では3学年間を見通して、下図のような学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を養うことが大切です。

《学習過程の参考例》



📖 解説 小学校家庭編 p.12~16、p.72~73 中学校技術・家庭編 p.62~66、p.121~122